



## 家族で楽しむフルーツゲーム

人数：2～6人  
年齢：6歳ぐらいから

内容：カード 56枚  
ベル 1個  
説明書 1部

### このゲームについて

プレイヤーは順番に自分のカードを表向きにして場においていきます。場に同じフルーツが5個そろったら、すぐにベルを鳴らします。最初にベルを鳴らすことができた人が、場に出ているカードを全部もらいます。最後に1番たくさんカードを持っている人の勝ちです。

### ゲームの準備

テーブルの中央にベルをおきます。(テーブルを傷つけない様に布やフェルトの上におくと良いでしょう)

カードを配る人を決めます。その人はカードをよくきり、各プレイヤーに全部のカードを配りきります。

配られたカードは表をふせたまま山にして自分の前におきます。この時カードを見てはいけません。

## ゲームをはじめます

カードを配った人の左となりの人からはじめます。プレイヤーは自分のカードの山の1番上のカードを表向きにして場におきます。表向きにしたカードは、必ずそこにおくようにします。前の回に出したカードの上に重ねて、前のカードが見えないようにおきます。

## カードを表にするとき

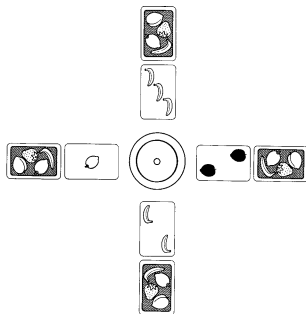
カードを表向きにするときは、自分の反対側から開くようにして、他のプレイヤーより先に絵を見ることができないようにします。できるだけすばやくカードを表にすれば自分も早く絵を見ることができます。



カードのめくり方

## いつベルを鳴らすの？

プレイヤーはそれぞれが表にしたカードの同じフルーツの合計が「5」になったら、ベルを鳴らします。



右図の場合はプレイヤーが4人であそんでいます。バナナの数の合計がちょうど「5」になっています。

## すばやい反射神経で！

同じフルーツの合計が「5」になったとき、1番最初にベルを鳴らしたプレイヤーは場に出ている表向きのカードの山を全部もらうことができます。そのプレイヤーはもらったカードをすべて、表をふせて自分の手持ちのカードの山の下に足しておきます。それから、そのプレイヤーから次の回をはじめます。

## さようなら！

自分のカードと場に出した表向きのカードが全て無くなったプレイヤーは、その時点でゲームから抜けます。

※手持ちのカードが無くなっても、ゲームに参加してベルを鳴らすことはできません。  
(2018年ルール改定 榎エルフが意識しています)

## 残念！

場のフルーツの合計が「5」ではないのに、まちがえてベルを鳴らしてしまったプレイヤーは、ペナルティとして手持ちのカードを1枚ずつ他のプレイヤーにあげなければいけません。カードを受け取ったプレイヤーは表をふせて自分の手持ちのカードの山の下に足しておきます。

## ゲームの終了

プレイヤーが最後の2人になって、フルーツの数が「5」になったとき、先にベルを鳴らしたプレイヤーが場のカードをもらいます。ここでゲームは終了です。ただし、特別ルールとして、2人のうちどちらかが間違えてベルを鳴らしてしまったら、もう1人のプレイヤーが場のカードをもらって、ゲーム終了になります。また、もし2人が続けたいのであれば、どちらかが全てのカードを勝ち取るまでゲームを続けてもかまいません。

## 勝者は

最後に1番たくさんカードを持っていたプレイヤーの勝ちになります。

## ●バリエーションルール(簡単な遊び方)

ゲームの進め方は基本的な遊び方と同じですが、ルールを変えて遊びます。

- ①数に関係なく、特定のフルーツを決めて(例えばバナナ)そのフルーツ(バナナ)の絵が出たらベルを鳴らす。
- ②フルーツに関係なく、特定の数が出たらベルを鳴らす。
- ③はじめのうちはカードの枚数を減らして遊ぶと年齢の低い子どもにも理解しやすいでしょう。

(例:フルーツの種類を限定して配る。あるいはカードに描かれているフルーツの個数が1~3個までのカードに限定して使用するなど)



株式会社エルフ

〒181-0002 東京都三鷹市牟礼6-10-5-1F

TEL.0422-41-3424 FAX.0422-41-3425

AMIGO Spiel + Freizeit GmbH

Waldstraße 23-D5 - D-63128 Dietzenbach

[www.amigo-spiele.de](http://www.amigo-spiele.de)

© AMIGO Spiel + Freizeit GmbH, D-63128 Dietzenbach, MCMXCVIII